

来週の「売り物記事」はこれ



2019年1月18日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

突然死ゼロを目指して

AED活用を訴える母と元教育長の二人三脚

20日(日)



さいたま市の小学校で8年前、6年生の少女が駅伝の練習中に突然亡くなりました。学校は「呼吸がある」と判断し、自動体外式除細動器(AED)を使いませんでした。

いったい何があったのか——。学校と対立する親。両者を和解させたのは教育長(当時)のある行動でした。

AEDを活用して突然死を防ごうと、全国を巡る母と元教育長の「二人三脚」を追いました。筆者は生活報道部の林奈緒美記者です。



わくわく山歩き 柏澄子さん

サラダぼうる面 21日(月)

フリーの山岳ライター、柏澄子さんによるエッセーの初回。東京・奥多摩にある御岳山(みたけさん)を取り上げます。



御岳山には約160人の住民からなる集落があり、うち26軒は山の頂にある御嶽神社=写真=の神官が営む宿坊です。神官たちは毎日交代で神様に食事を運び、祈りをささげています。里山に近い御岳山へと至る道は、季節や日程、コースを変えながら、手軽に何度でも楽しめます。

輸出総崩れ 行き詰まる原発輸出

夕刊特集ワイド 21日(月)

安倍政権が成長戦略の柱と位置付けた「原発輸出」が総崩れです。

東京電力福島第1原発事故の後、国内では原発の新增設が困難となって海外に活路を見いだそうとしましたが、各メーカーは採算が合わないと判断しています。

かつての「夢のエネルギー」は「もうからないビジネス」となっています。安倍政権はそれでも輸出を諦めないのでしょうか？

障害者、分身ロボで在宅接客

くらしナビ面 22日(火)

障害があるため外出や肉体労働が難しい人が自宅にいながら店員として働ける「分身ロボットカフェ」が、期間限定でオープンしました。パソコンで遠隔操作して、「もうひとつの体」(人型ロボット)を動かす仕組みです。

参加者の一人は「周りの人に『ありがとう』と言って過ごしてきたけれど、逆に『ありがとう』と言ってもらえるのがうれしい」と話しています。

日本ラグビー発展のために

スポーツ面 22日(火)から



9月20日に開幕するラグビー・ワールドカップ(W杯)日本大会に向け、日本代表の針路や大会成功の鍵を考える長期連載「ラインブレイク」がスタートします。

第1部のテーマは「ジャパンの爪痕(つめあと)」。過去8大会における日本代表の象徴的なシーンや画期的な場面について、当時の選手らが振り返りながら、日本のラグビー界が発展するためのメッセージを伝えます。

幻の科学技術立国 最新分野でも出遅れる日本企業

科学面 24日(木)

「幻の科学技術立国」第3部「企業はいま」の最終回では、世界の企業がしのぎを削る最先端の注目分野でも出遅れ気味の日本企業を描きます。

高効率で安価な次世代太陽電池として有望視される「ペロブスカイト太陽電池」は富士フイルム出身の日本人研究者が開発しましたが、大量の研究リソースをつぎ込む中国などに抜かれ、日本では研究が停滞する「ドーナツ化現象」が起きています。

ビッグデータ解析をビジネスに生かすため、GAF Aに代表される巨大IT企業はこぞってマイクロ経済学者の採用に乗り出していますが、日本企業の動きは鈍いといいます。

かつて「ジャパン・アズ・ナンバーワン」と言われた日本企業の復活には異分野融合がカギになるとみて、政府もようやく人文・社会科学の振興に乗り出します。

虐待をなくすために

くらしナビ面 24日(木)

「顔がむかつく」と言われて殴られた、母の再婚相手から性的虐待を受けた――。親から虐げられる被害に遭った3人が1年前、「インタナリバティ・プロジェクト(インリバ)」というグループを作りました。

出会いの場になった写真展「インターナル(内面の)」の頭文字に「リバティ(自由)」「レスポンス(反応)」を合わせた造語です。3人が体験を明かしました。

よみがえるセンバツ名場面

社会面 26日(土)から

今春の第91回選抜高校野球大会(3月23日開幕、阪神甲子園球場)は平成最後のセンバツとなります。出場校決定翌日の26日から大会開幕当日まで、平成30年間の大会史を紹介します。

「ゴジラ」松井秀喜選手(石川・星稜高)の大会3本塁打(1992年)や沖縄勢による初の甲子園制覇(沖縄尚学、99年)など、忘れられない名場面の数々を写真とともに紹介します。

